

令和5年度 病害虫防除技術情報 第3号

令和5年7月21日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

白ねぎにおける軟腐病の追加防除について

7月に入り、北部及び西部地域を中心に、線状降水帯の相次ぐ発生に伴い圃場の冠水被害が生じており、軟腐病の発生も早まっております。同月に実施した巡回調査では、いずれも微発生であるものの、発生圃場率は前年を上回っております。本病の生育適温は28～34℃であり、長雨の続くような湿潤気味な気候を好みますが、1ヶ月予報（7月13日・福岡管区气象台発表）によると、7月22日以降の気温は高い確率が60%、降水量は平年並と予想されています。特に、7月後半は、オリゼメート粒剤の残効が切れる時期にも当たるため、速やかな追加防除をお願いします。

7月中旬巡回調査における白ねぎ 軟腐病の発生状況

発生圃場率：53.3%（前年：13.3%）

※発生圃場は、いずれも微発生。

1. 高温時におけるオリゼメート粒剤散布の留意点

本剤は、本病に対する残効性が高い防除効果に優れた薬剤です。本剤のねぎに対する使用回数は「2回以内」のため、多発年では1作当たり2回散布を推奨してきました。

一方、本病の使用時期は、「土寄せ時（但し、収穫30日前まで）」となっており、特に土寄せは、分けつ部や根部切断面からの本病原菌の侵入機会を増やす危険性もあります。そこで、高温時における本剤の散布にあたり、土寄せによる悪影響を少しでも避けるため、以下の留意点を取りまとめましたので、ご参照ください。

- (1) 本剤を土寄せ時に散布する目的は、覆土により本剤の溶出を促すためである。逆に、本剤の散布にあたり、ねぎ葉鞘部への覆土は目的ではない。
- (2) 本剤の使用基準等では、覆土量および土寄せ方法を規定する記述はないため、(1)に留意した土寄せが肝要である。
- (3) 高温時における本剤散布および土寄せの考え方（図1）
 - ア 土寄せによる分けつ部や根部切断面からの病原菌の侵入を防ぐため、本剤散布前に、予めスターナ水和剤等を散布することが望ましい。
 - イ 本剤を、畝の片側のみに散布する。その際に、ねぎ葉鞘部への覆土を少しでも避けるため、葉鞘部から少し離れた畝の肩部に散布する。
 - ウ 本剤を散布した「片側」のみ土寄せを行い、極力断根を避ける。その際の覆土量は、本剤が覆土されればよく、ねぎ葉鞘部を埋めるような覆土は不要である。
 - エ 本剤を散布していない畝間からの土寄せは避け、一列飛ばしで土寄せを行う。

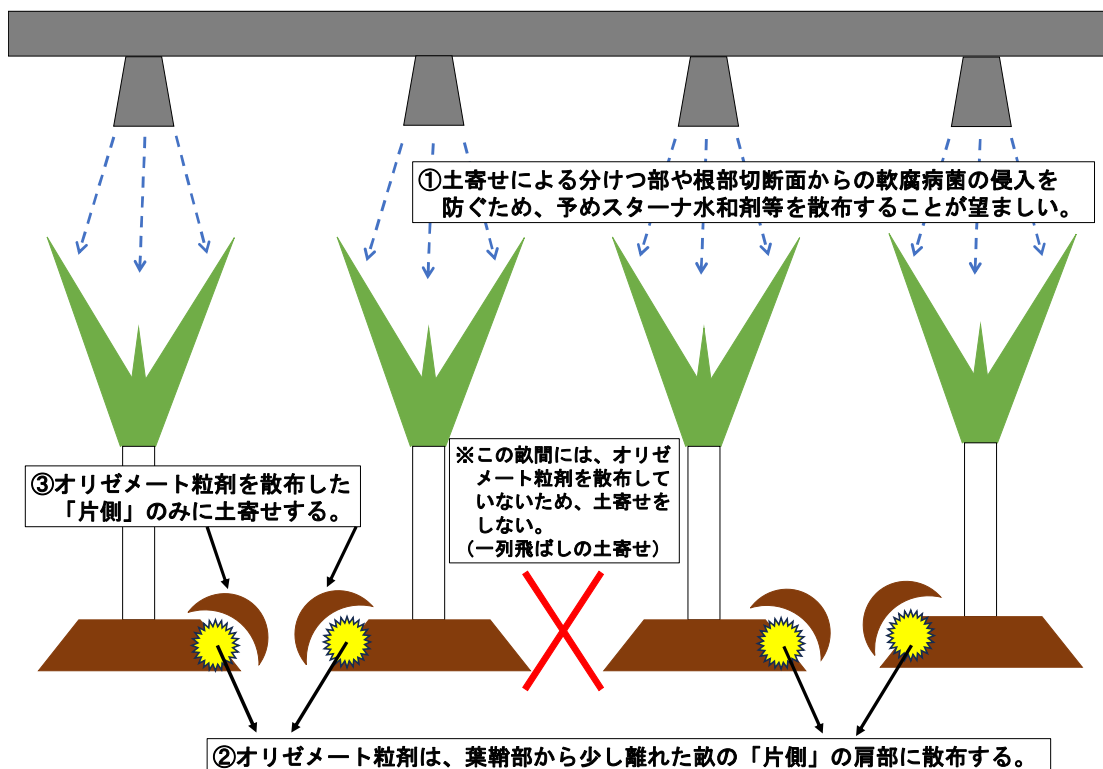


図1 高温時における本剤散布および土寄せの考え方

2. 防除上の注意事項

- (1) 本病に対する追加防除としては、オリゼメート粒剤の2回目の散布の他に、散布剤による防除がある。
- (2) 窒素過多になると感染しやすくなるため、適切な窒素量にする。
- (3) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」の「ねぎ」の項目を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。



ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>